



# 大本山永平寺

## 上山

深山幽谷の当地はこの時期、日照量は特に少なく、厳冬の極みの永平寺です。

今月は十八日より上山の修行僧たちが続々と入門を乞うて数日おきに到着します。

多くは平成生まれの雛僧たちです。前晩に永平寺塔頭の地藏院に宿し、威儀を整え出発。早朝に永平寺山門に立ちます。

緊張と寒さで身体は凍てつき、痛感も失われる頃その時が来ます。古参和尚の導きにより草鞋を外し、恭しく礼拝し、入門します。次に向かうのは「旦過寮」たんがりょうです。基本作法の習得と坐禅に徹すること一週間。明けても正式な雲水ではなく、暫くは見習い僧という位置づけで修行に専念します。すでに何処かの僧堂で修行経験のある者は別にして、初人者しよにんじやは立ち居振る舞いが容易ではなく、正座や坐禅の痛みも合わさり過酷な日々を辛抱しなければなりません。

激変する環境は食生活も同様です。質素な精進料理を選び好みすることはできません。見習い期間を励み勤めますが、彼等が正式な雲水として承認される日は五月のことです。





# 大本山總持寺



涅槃会（佛殿）

## 節分会追儺式

二月三日、節分会追儺式が行われます。例年、大祖堂で執り行われ、百人を超える年男・年女が、人気力士や有名タレントたちとともに参加します。まず禪師さまを大導師に、御祈祷が行われ、皆さまの無病息災、諸縁吉祥をお祈りします。そして、早いリズムの太鼓に合わせて般若心経が読経される中、豆の入った升が次々と内陣から繰り出され、禪師さまや、年男・年女、さらには有名人たちに手渡されます。それが終わると、禪師さまの「ふくはーうち」というかけ声を合図に、一斉に豆がまかれます。二千人を超える参拝者の歓声で千畳敷の堂内はたちまち熱気に包まれます。豆まきが終了した後は、有名人たちによる福引き抽選会がおこなわれ、節分会の楽しみをさらに盛り上げます。

また二月十五日には、お釈迦さまのご命日を追慕する釈尊涅槃会が仏殿で行われます。創建当時、与謝野晶子氏が「胸なりて我ふみがたき 氷よりす（澄）める 大雄宝殿のゆか」と歌に詠んだ荘厳な建物が、ひとときわ静寂な雰囲気包まれます。尚、本年は涅槃会にあわせて、坐禅三昧の行である涅槃会報恩摂心会が、十二日から十四日の三日間行われます。



# 曹洞俳壇

選・村松五灰子

長き夜のナース掌に書く覚え書き

愛知県 田中 澤子

評 看護師さんは朝となく昼となく多忙である。夜ともなれば入院患者にと気を緩める間もない。検査などの大切な数値などは間違えてはならない。掌にメモった姿を作者は、看護師さんの忙しさを表す象徴的な出来事として見逃さなかった。

大海のごと大空に鰯雲

山口県 糸山 栄子

評 鰯雲の大群の広がりをお空をもつて描いた。視界に溢れるその大群は空の青さを背景に神のなせる造形の美しさに、ため息さえ出そうである。その感動の一句。

◆焼詣の売り声いつも遠くあり 神奈川県 柳原あきとし

◆色の無き風山門は常に開く 東京都 伊奈 三郎

◆会ひたくて慰めたくて蜜柑買ふ 千葉県 吉田 ツル

◆もう二度と来れぬ菩提寺秋惜しむ 北海道 大野 節子

◆心張りを外して小春日和かな 岩手県 鈴木 道昭

◆葬送の少し坂道枇杷の花 宮城県 佐竹 高子

◆大手門くぐる家康菊人形 愛知県 平松 京師

◆しんしんと少女読経秋櫻 千葉県 森 聖子

◆命得しベッドの寝顔明易し 山口県 福田 澄雄

◆一駅を小春日和と歩きけり 東京都 野村 信廣

\*選者吟

言の葉も亦仏身と梅の寺

五灰子

\*作句小見

今よりも少し若い頃、知らない町のとあるお寺の掲示板に掲句のような意味が書かれてありました。俳句を通して言葉

を学ぶ私は新鮮な感動が湧きあがりました。



# 曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

震災後飯炊きをせし七輪に今宵は秋刀魚の  
四匹を焼く

福島県 大槻 弘

評 ガスも電気も断たれた震災直後は、七輪に炭火でご飯を炊いたが、今夜はその七輪で家族四人の秋刀魚を焼いていると詠う。被災地の暮しはいくらかでも改善しているのだろうか。平穏な元の生活に早く戻れるようにと祈るばかりである。

過ちてかたつむり踏みし感覚が半日過ぐる  
も足裏に残る

静岡県 高尾 善五

評 作者は初句の「過ちて」の思いを結句まで引きずっている。けなげに生きる小さな命を断ってしまったという悔を、踏みつけた気色悪さ以上に足裏に感覚しているのだ。

◆津和野路の大熊ささの雪の間にお顔やさしき六地藏さま

山口県 中井 清子

◆クレゾールの匂ひまとひて夜勤より帰れる妻の

北海道 池田 雨郷

◆寺前で骨董品の市ありき今も動くよゼンマイ時計

福井県 清水 博行

◆軒並みにシャッターおりし街頭に自販機のみが光を放つ

岩手県 池田 眸

◆仕事場の夢見ること無くなりぬ過ぎにし日々の

広島県 日松 弘

◆乳飲み児の涎ゆっくりふくらみて四方の光をあつめて

山口県 浜田 道子

◆一塊の故郷の石持ち帰り墓に置きたり父母在る如く

福岡県 小林 素水

◆京都から永平寺へとお参りす行けども行けども

広島県 田頭 律子

◆みどり児をあずかる爺にはよき日なり乳さえやれば

福島県 西木 甚

◆子らが描く絵の馬はみな左向く凶鑑の馬は右も左も

東京都 野村 信廣

## \*選者詠

月蝕の極まりにけるその刹那雲の白馬が  
駈け去りにけり

ちづ

## \*作歌小見

赤銅色の皆既月食を仰ぐ幸運に遭遇しました。宇宙の広大な営みの前に、人は何とはかなく頼りないものでしょう。大震災と原発事故の恐怖にさらされた現在なればこそ、尚一層その思いを強く感じました。